

3年ぶりの開催となった北海道高等学校商業フェア



道高等学校商業フェア

釧商業、白糠、中標津、根室が参加

地元銘菓、特産品PR

北海道高等学校商業フェアが16、17の2日間、札幌市厚別区のサンピザ・光の広場で開かれた。釧路、根室地域からは釧路商業高校、白糠高校、中標津高校、根室高校の4校の生徒が参加、独自に開発した商品や地域の銘菓や特産品を持参して販売。「おいしいですよ。ぜひ食べてください」など自ら販売を繰り返した。

高校で商業を学ぶ生徒たちにとって、販売の実演や他校との交流が大きな刺激にもなる最大のイベント。コロナの影響もあり、3年ぶり11回目の開催になった。釧根の4高をはじめ道内から23校、約140人の生徒たちが参加した。販売品目は海産や畜産をはじめお菓子など合計約220品目でうち65品目が生徒たちが出して開発した商品。

釧路商業高校はあんころもちや弟子回イチゴのチーズタルトなどスイーツが中心。白糠高校は生徒が開発したしょうゆ味の薫製刺身、根室高校は帆立「はんの素」など海産物がメイン。中標津高校は特産の「想いの言」などを並べた。

3年ぶりの開催に「これまで参加できなかった先輩の分まで気合を入れて商売開発に取り組みました」と根室高校の高橋孝太郎さん。生徒たちは初めてなのに最初は緊張気味だったが、慣れてくるとのんびり大きな声に。「おいしいそうね。お友達のお土産にしたいので一つずつ包んでくれる」との年配の女性の注文にも、笑顔でテキパキと対応していた。